

# 恐れずに前へ

～昨日までの自分(達)を越えて～

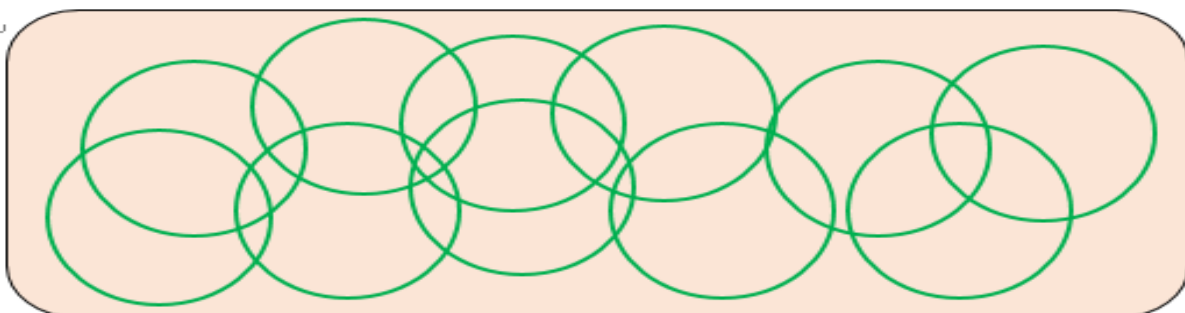
発行者 姫野 倫理

## この時期をどう過ごす??PART2

### ②学習パターンを確立しよう!

受験勉強の難しさは、「**範囲の広さ**」にあります。範囲が決まっている定期テストであれば、そこに集中すればいいのですが、3年間の全ての範囲を5教科勉強しないとイケないことが受験生を苦しめます。勉強を頑張りたい気持ちがあっても、その「やり方」が決まらなければ、時間ばかりが過ぎてしまい、効率も上がりません。そこで提案したいのが「**公立高校入試の過去問題**」を軸にした勉強の方法です。

#### ◇イメージ図◇



---3年間の全ての学習範囲

○---過去問題1年分の内容

3年間全ての学習範囲が出題される可能性があるため、**1年生の最初から3年生の最後の内容まで、全て復習するのが最も確実な方法と言えますが、その反面、時間も大量にかかりますし、「理解できている内容まで改めて学習する」という面で効率は良くありません。**

過去問題を10年分解くとすると、上の図のようなイメージで、範囲が広がっていきます。学習しない範囲も出てくる可能性があります、10年間出ていない問題に時間をかけるのは効率が良いとは言えません。

**逆に、緑の○が重なっている部分は、10年間で複数回出題されている範囲ということになりますので、当然重要度も高くなります。**

- ・ **過去問題を解き、わからなかったところを、教科書や参考書を使ってノートに復習する。**
- ・ **10年分解き終わったら、再度1年目から解きなおす。**

ここで重要なのは「10年分を1回解いて終わり」にするのではなく、「**複数回繰り返す**」ということです。おそらく、2回目3回目と繰り返し解いても、わからない部分や間違える部分が出てきます。**それが本当の「苦手な部分」**ということになりますので、そこを重点的に復習することで克服できる可能性も高まります。また、やり直し用のノートを作成しておけば、入試のころには「**自分の苦手な問題が一目でわかるノート**」が完成しているはずですよ。

また、学習の計画が立てやすいのも、過去問題を利用した学習の魅力の一つです。**ご存じの通り、公立高校入試の1教科の制限時間は「50分」です。「50分」で問題を解き、復習などに「40分」かかるとすると、1教科の学習にかかる時間はおよそ「90分」と予想できます。**

あとは、部活動等との兼ね合いも考慮し、自分の生活リズムに合わせて取り組んでいけば「何をしていたかわからない」問題は解消できるはずですよ。

絵やイラストのたくさん載ったテキストもお子様にとって魅力的だと思いますが、3年間の学習内容をバランスよく勉強でき、入試本番の対策もできる「公立高校入試の過去問題」を活用した学習方法はぜひおすすめですよ。ご家庭でも話題にしていただけると幸いです。

**☆まずは自分に合う学習方法を決めることから始めよう!**